

アカイセエビ資源管理技術開発に関する研究

【研究概要】

小笠原海域におけるアカイセエビについて、生活史を把握するとともに、漁獲統計や標識放流等を用い資源特性値を把握する。それらを踏まえ、資源管理手法を開発し、地先で展開されている資源管理の取組みに対し、科学的立場からの助言を行う

①調査船 10 隻に操業記録の記入を依頼し、籠ごとの漁獲尾数を得た。CPUE は、父島列島周辺より聳島列島周辺が高い傾向にあった。昨年度と比較して北之島、弟島・孫島、兄島の 3 地点で減少、父島東で増加していた。

②調査期間中に漁獲されたアカイセエビ 525 尾を測定した。漁獲サイズ(頭胸甲長 100mm 以上)の個体では、頭胸甲長および体重の中央値は雄で 127.2mm、1,670g、雌で 107.6mm、1,092g だった。

③これまでに判明した資源特性値をもとに YPR・SPR を求めた。親魚量が十分に確保できていないと推定された。

④2021 年 1 月～4 月に採集した 61 検体を PCR-RFLP 法により種判別した。イセエビが 50 検体、アカイセエビ、カノコイセエビ、シマイセエビがそれぞれ 1 検体、バンド検出無しが 8 検体であった。幼生のステージはすべて VI～VIII であった。